レッスン：25“M”

テーマ：エクササイズの分析

シリーズ　M/MAC25/EN/DOC.

私の姉妹、兄弟たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

前回のレッスンではいわゆるエンドスコピシス、瞑想、黙想について書きました。瞑想と黙想の違いについて述べました。黙想とは魂のセルフ・エピグノーシスの現れであり、それはその中に魂のスパークを有しており、一方、瞑想はLifeの現象である現在のパーソナリティーによって表現されるものである、と述べました。

他方、エンドスコピシスには特別な目的があり、それは現在のパーソナリティーの気づきの上昇を助け、その結果、Lifeそれ自体の特質をより多く表現できるようにすることです。もちろん、現在のパーソナリティーとしての仕事は、聖なる現れであり、Lifeそれ自体の特質である黙想を現わすることです。

真理の探究者が取り組むあらゆるワークは、エンドスコピシスの大きな傘の下にあります。そのワークは次のようなものから成り立っています：

物差し、基準として探求者に与えられた経験的知識。その経験的知識を使って、その人の行為を比較します。その人がその日の出来事にアプローチした仕方を比較します。要するに、それは観察、考察、分析というエクササイズにおいて使用されます。

様々なエクササイズがありますが、より良い自己を表現できるようになり、より高い気づきのレベルを表現できるようになるために、真理の探究者はそれらのエクササイズを行います。それらのワーク全てがエンドスコピシスなのです。

私たちが与えた全てのエクササイズは、現在のパーソナリティーがより良い自己を表現し、より高い気づきへと到達し、現在のパーソナリティーの不定形な諸体を再形成するのを助けるためです。

さらにまた、同胞の人間の苦しみを軽減するという目的をもつエクササイズも与えました。それは、苦しみ、困っている人々を抱きしめ、アガピを提供するというワークです。それらのワークを促進するためには、真理の探究者がエーテルの様々な特質と親しみ、それらのエーテルの特質をマスターするよう心がけることが必須です。運動エーテル、感覚エーテル、刻印エーテル、さらに創造エーテルがあります。

真理の探究者は創造エーテルに関わるべきではありません。なぜなら、他の三つのエーテルをマスターした時…それはつまり現在のパーソナリティーが不定形な諸体を再形成したことを意味しますが…それは“恩寵”として加えられるからです。それまでは、創造エーテルは聖霊の監督下にあります。

真理の探究者のもう一つの仕事は、意識およびセルフ・エピグノシスのセンターを刺激することです。

意識およびセルフ・エピグノシスのセンターとは、純粋な意識のセンターとしての太陽神経叢のセンター、そして意識およびセルフ・エピグノシスのセンターであるハートのセンター、さらに純粋なセルフ・エピグノシスのセンターである頭のセンターを意味します；現在のパーソナリティーを定義する三つのヒポスタシス（＊ある状態にあること）のセンターです。これらだけが真理の探究者が扱うべき聖なるセンターです。

実際、気づきの上昇、および不定形な体の再形成に向けたワークの結果としてのみ、これらのセンターが活性化されるべきです。サイコノエティカルな上昇の結果としてこれらのセンターが活性化すると、それらのセンターは純粋な色を輝かせます。太陽神経叢はホワイトブルーという単一の色で輝き、ハートはホワイトピンク、そして頭は金色に輝きます。

Page2

不幸にも、これらのセンターを現象的に活性化させる様々な方法が、本や雑誌を通じて紹介されています。生憎、センターを活性化させるためのそれらの方法は実践者たちに多くの幻想を与え、同時にパワーと能力をも与えます。特に、他のセンターへの集中と組み合わせた場合に。それらのメソッドは過去の神秘家たちの方法なのですが、不幸にもいまだに多くの流派がそれらのメソッドを使っています。

もしあなたが自分自身を真剣なる真理の探究者と考え、サイコノエティカルな上昇だけがあなたの動機であるなら、あなたは決してそのようなメソッドのエクササイズを行うべきではありません。なによりも、パワーと能力の現れは気づきの上昇の結果としてもたらされるべきであり、特定のテクニックを使ってそれらの聖なるセンターに集中して得るべきものではありません。チャクラを回転させるといったエクササイズは非常に危険であり、それらのテクニカルな手段によってチャクラの活性化に成功した場合、それらの太陽（＊チャクラ）からの輝きは単色の純粋な色ではなく、複数の色が全方向に向かって輝くようになります。多色の輝きとなる理由は、集中によってチャクラを回転させると、結果的にその特定の一つのチャクラのみならず周囲のチャクラをも同時に活性化することになり、様々な色が混じった色となるのです。

もし意図が同胞の人間を助け、光に奉仕することにあるなら、そのための唯一の方法は気づきの上昇であり、それを通じて奉仕することです。注意してください。過去の多くの神秘家、さらに不幸にも現代の神秘家たちもそれらのセンターのエネルギーを高めるテクニックを実修し、また教えています。皆さんもそのようなエクササイズに出会ったことがあると思います。私たちのアドバイスは、それらを脇に置き、決して再びそれに触れないように、ということです。あなたがたの集中は、より良き自己を表現するためにのみ向けられるべきです。どのようにして？観察と自己分析を通じてであり、自己分析の結果、次にあなたの潜在意識の中に暗示の言葉を置くのです：またさまざまなタイプのエクササイズがあり、最終的に私たちにはエクササイズをとおして与える、というワークもあります。

これがあなたの気づきを高めるための、あなたの内なる自己、あなたの真の自己の特質をもっともっと現すための唯一の方法です。さらに、これがパワーと能力を現すための唯一の方法であり、その時それらのパワーと能力は確実にあなたの同胞である人類に奉仕するものとなるのです。

さもないと、テクニカルなワークを通じてパワーと能力を開発しても、それらのパワーと能力は反対の側に奉仕することになります。なぜなら、あなたの動機と意図が純粋でないからです。それを理解しなさい。

それゆえ、いわゆるチャクラ、球体に関するエクササイズ、つまりそれらのセンターを活性化しようとする試みは非常に危険であり、あなたの帰還への道のりをより長いものとする結果となります。チャクラに関するエクササイズと言う時、それはどういう意味でしょうか？そうです、様々なタイプのエクササイズがあります。チャクラを動かす、チャクラを回転させる…；それら全ての方法は真剣な真理の探究者には許されていません。私たちは気づきの上昇を通じてそのような結果に至ることを望んでいます。もしテクニカルな方法を通じて、集中を通じてチャクラを回転させようとするなら、最終的に太陽の輝きを得ることができるでしょう；しかし、それは多色の輝き、混合色の輝きであり、単色の純粋な色ではありません。私たちが太陽神経叢で得るべき本当の色は純粋なホワイトブルーの輝きであり、ハートのセンターでのそれはホワイトピンクであり、頭における色はゴールドです。

さて、あなた方は多くの本、多くの哲学においてそれらの太陽、それらのセンターが多色の輝きとして書かれている理由が今理解できたと思います。なぜなら、特別なテクニカルワークによる集中の結果としてそれらのセンターが活性化されたからです。それが理由です。それゆえ、真理の探究者がやるべきことは、より良い自己の現れ、気づきの上昇を助けるような全てのワークに向けて集中することです。それ以外のものはありません。

Page3

もし私たちがあるセンターに集中してそのチャクラを回転させようとすると、実際に生じることはそのセンターの活性化ではなく、その動きの結果として代わりにそのセンターの周囲のセンターが活性化されます。

パワーと能力のセンターを活性化してしまいます。動きは機械的に行われます。ここに一つの例があります。もし軸に車輪が一つついているとします。その軸の一つの端はインナーセルフのパワーに接続されています。しかし、無知の中にある間はインナーセルフのパワーは軸に伝わりません。テクニカルな手段による集中を通じて私たちがやろうとすることは、軸それ自体に力を行使して軸を回転させようとするのと同じです。しかし、適切なやり方とは、気づきの上昇による集中の結果として軸にパワーを放出し、つまりインナーセルフのパワーを放出し、軸が回転することです。（インナーセルフの）パワーが放出されると軸が回転し始め、その結果、車輪も回転します。私たちは車輪を回転させることによって軸をパワーそれ自体にコネクトさせることは決してしません。なぜなら、私たちがその車輪への集中を停止した瞬間、車輪がストップするからです。

しかし、“しかし”です。この段階に到達するまでに、生憎、それらのセンターはすでに悪影響を受けています。なぜなら、チャクラの回転による輝きが低位の諸センター、つまり生殖器、膝、そして足の下のセンターに影響を与えています。これが生じるということは、そのパーソナリティーが非常に低いバイブレーションのエレメンタル、サミュエルのエレメンタルとつながってしまうことを意味します。サイコノエティカルな障害として、それは精神分裂症の最悪の形態のひとつとして現れます。ですから、私たちは非常に注意すべきです。私たちのアドバイスは、あなた方は忍耐強くあるべきであり、パワーと能力を約束するような無知によるエクササイズを行うべきでない、ということです。

真摯な真理の探究者は、“それらのエクササイズを実修して、あるいはいかなる形態の神秘学であれ、それらによって実際に何を達成しようと願っているのか”について自らの心に問うべきです。自らの動機を定期的に問う、という習慣をつけるべきです。自分の気づきが上昇するにつれて、それまで自分がフォーカスしていた対象に対する間違った動機に気づきやすくなる、というパラドクスもあります。多くの探求者が自分は進歩というよりむしろ後退している、という印象を抱くようになるのは、それが一つの理由です。

唯一のまじめなワークとは、エンドスコピシスのワークです。確かにこの種のワークは初めは即座にはっきり感じられるような結果をもたらさないかもしれません。しかし、これがあなたのインナーセルフに帰還するための、魂のセルフ・エピグノシスとしてのあなたのインナーセルフの現れに戻るためのもっとも速い道なのです。将来、これらについてさらに述べ、さらなるエクササイズを与えましょう。

**質問**：刺激を与えるエクササイズの例をあげてくれますか？

**K**：刺激を与えるとはどういう意味ですか？もし太陽が純粋な色で輝いているのを見るなら、それは刺激を与えるエクササイズです。なぜなら、私たちはそれが純粋な色で輝いているべきであるのを見るからです。不定形な体を再形成した結果として、私たちの諸体をマスターした結果として十分に活性化された太陽のあるべき姿、をイメージするのです。もし私たちが太陽をあるべき姿としてイメージすると、それが不定形な諸体の形を再形成する助けとなります。なぜなら、実際、私たちはその方向に向かう助けとなるエレメンタルを創造するからです。

ですから、正しい刺激と間違った刺激があります。あなた方のために繰り返しますが、特定のテクニカルなワークを通じて諸センターを活性化するようなエクササイズを全て止めるよう忠告します。その種のワークはマジックであり、それらは魔術の本のなかに必ずあります。あなた方はマジシャンになることを目指しているのではありません。私たちは真理の探究者であり、真理を探求し、自らのインナーセルフをより多く現そうとしているのです。それが私たちです。真摯な真理の探究者に許された唯一の現象は、真の現れとしてのLifeそれ自体の特質の表現です。なぜなら、真摯な探求者が受け入れることのできる唯一の現象とは生(Life)だからです。

**質問**：それらのセンターに瞑想する必要はないのですか？

Page4

**K**：もちろん、私たちには意識およびセルフ・エピグノシスのセンターについてのエクササイズがありますが、それらは活性化のためのエクササイズではなく、私たちの諸体をマスターするのを助けるためのものです。先に述べたように、私たちのワークは集中でもなければ、チャクラを回転させようとする努力でもないし、気づきの上昇という結果によらずセンターを活性化するようないかなるワークでもありません。もちろん、私たちはその種のワークについては良く知っており、その危険性も知っています。人々がその種のワークを白魔術と呼ぼうが黒魔術と呼ぼうが、私たちはそれらの魔術を是認しません。それが白であろうと黒であろうと魔術であることに違いはありません。それには一つの特定のテクニックのみが存在し、動機と意図が白と黒を分けます。しかし、もし人が魔術を実修する場合、その動機と意図は純粋ではありません。あるいは、純粋であり続けることができない、と言いましょう。なぜなら、それを実修するパーソナリティーが自分の諸体をマスターしていないからです。

多くの例があります。歴史を遡っていくと、多くの知識をもたらしたパーソナリティーがたくさんいます。しかし、思考・行動の仕方としてのそれらのパーソナリティーの中に深く入っていくと、ほとんどの場合、それらのパーソナリティーがアンバランスであることがわかります。もし、あなたがそれらのパーソナリティーの何人かを調べて見ると、私たちが今述べている真理がわかるでしょう。

ほとんどの場合、重要なのは何をもたらしたかではなく、背後にある動機です。確かに、テクニカルな手段を通じて潜在意識いわゆる汎宇宙的潜在意識に同調することによって多くの知識をもたらすことができます。しかし、信じてください、それは正しいあり方ではありません。それは経験的知識ではなく、実体的知識ではありません。インナーセルフから来るものではありません。真理の探究者として私たちが求めるべきことは、単なるエピグノシス、知識としてではなく、思考・行動の仕方として、現在のパーソナリティーの真の現れとして、インナーセルフからの現れを表現することです。他の人々が何かを行うように助ける場合、まず私たち自身がそれを行う必要があり、それが私たちの真の表現でなければなりません；さもなければ、もしそれがテストされ、証明済みでないなら、なぜそれを与えるのでしょうか。

インナーセルフの特質の真の現われと、潜在意識のマインドに同調した結果としての現れとの間には大きな違いがあります。そして、信じてください、テクニカルな手段を通じて得られるものは潜在意識への同調だけで、それ以外のものはありません。確かに、それを通じて多くの人々が経験的知識を得たと宣言しているのを聞いたことがあるかもしれませんが、それらは間違いなくイリュージョンです。あなたが自分の潜在意識に同調すると、実体的経験をしているというイリュージョンを抱くでしょう。それは誰かがドラッグ、麻薬を使用する時とまったく同じです。ドラッグを使う人々は非常に素晴らしい世界に入ったと主張しますが、それはイリュージョン以外の何物でもありません。潜在意識のドアーを開き、同時に、思い出さないという聖なる法則を無視しているのです。他の人々がその法則を破るのを助けている自分とはいったい誰なのでしょう？

**質問**：私たちは意識のセンターの色、およびセルフ・エピグノシスを知っているので、純粋な色を発する球体などの使用というテクニカルな手段で、プロセスをスピードアップするのは可能ではないですか？

**K**：ノーです。なぜなら、あなたはそうすることによってエレメンタル、実際に助けにならないエレメンタルを創造しているからです。そうしたからといってあなたはより良いセルフを現すようにはなりません；あなたはその結果としてパワーあるいは能力を表現するようにはなりません。

**質問**：（＊気づきの）上昇を意味するセンターとしてあなたは第三の目を挙げないので驚いているのですが。

**K**：あなたが“第三の目”というとき、気づきの上昇の結果として現れるかもしれない能力を意味していますね。それがあなたの質問に対する答えだと思います。いわゆる“第三の目”に集中する多くのエクササイズがあります。しかし、私たちはそれを使いません。なぜなら、それらは魔術のエクササイズだからです。真理の探究者の目的とするところは、自分の気づきの上昇の結果としてパワーと能力を現すこと、いわゆる五つの超感覚を現すことです。

実際、第三の目とは何でしょうか？それは五つの超感覚の一つです。そして、いわゆる第三の目は第三の目ではありません。違います。それ（＊真の第三の目）はあなたの存在の全ての原子、分子、そして細胞に存在するものです；額にあるのではありません。あなたがそれら特定の超感覚を活性化すると、あなたはあらゆるところから、そしてどこからでも見ることができます。あなたの小指からさえ見ることができます。それらが超感覚の能力です。これはもっとも安全な方法であるのみならず、もっとも速い方法でもあることを保証します。

Page5

いずれにしても、私たちは他のやり方、真摯なやり方、信念を過小評価するものではありません；真理の探究者として私たちは探求に探求を重ねます。静止することはありません。私たちが全てを知っているわけではありません。私たちが前進すればするほど、私たちは何も知らないということを理解します。しかし、私たちは結果を過小評価すべきではありません。過去に達成したことと現時点で到達したことを比較すると、常に進歩、成長があることがわかります。過去における達成を現在の達成と比較することはできません。そして、もちろん明日の達成は今日の達成よりもずっと高くなるでしょう。

もし私たちが成長しようと試みるなら、より良い自己を現そうと願うなら、他の全ての能力とパワーはその努力の副産物として現されます。なぜなら、エネルギーのセンターは私たちのインナーセルフの特質だからです。もしそれらの特質が現れるのを許せば、私たちはそれらの特質のパワーと能力を現すことになり、それらのパワーと能力はLifeそれ自体に奉仕することになります。なぜなら、それらはLifeの結果となるからです；それらは無知におけるLifeの現象の結果とはなりません。

前進するにつれて、もっと多くの詳細が表面に浮上してきます。結局、私たちは常に探求しているのです。私たちの前には与えるものは何もありません。なぜなら、これは探求だからです。

私たちは過去には行かず、過去に与えられたものには入りません。私たちは観察し、検討し、評価します。私たちは捨て去り、昨日の探求者ではなく今日の探求者に役立つものを採用します。従って、私たちは前に進むにつれて与えます。それが探求です。

私たちは常に神、絶対、神の聖性のなかに抱かれています。

EREVNA/SERIES M25/EN/DOC/SET.KE3